

令和6年度とよたシニアアカデミー通年コース

文化工芸学科 9月の講座風景

9月の講座は、日本の和紙本について学んで制作して、想像力と表現力を養うというテーマで「手製本の魅力～身近な材料で和製本づくり～」を全4回講座で行いました。御朱印帳と同じ形式の【折本】を、色画用紙やコピー紙を使って作成しました。折本の内容は、絵だったり書だったり、写真だったりそれぞれの「思い」を製本に織り込んで作成しました。

最終日には、それぞれの作品の「見あいこ会」を行い、文化工芸学科の仲間が多彩な才能や魅力を持った仲間だと言う事を改めて【折本】を通して感じとることもできました。

手製本の魅力～身近な材料で和製本づくり～ 9/4. 11. 18. 25 (水)

身近な材料で和製本づくり材料

- 板目表紙 A4 1枚 ●和紙柄コピー紙 A4 8枚
- カラーコピー紙 A4 2枚(見返し) 8枚(裏打ち)
- 色画用紙 八つ切 1枚 ●のり



絵本作家
こうむら ゆきな



初回講座では手製本にはいろいろな製本の仕方があることを知りました。



色を選ぶところから創造力と創作意欲が湧いてきます！



製作中

だんだん折本ができてきました！
内容はどのような？



アシスタント
前田 一子 氏

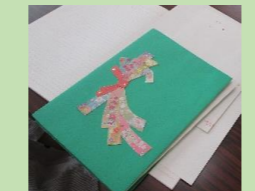
見あいこ会



みんなの思いが
つまった折本！
仲間の創作意欲
は凄いな！



旅の思い出や絵本、
エンディングノート、
書道、カレンダーなど
たくさんの折本が
完成しました！
2月の活動発表展
に展示します！



【受講生ふりかえりより】

- 手製本の1回目の講座では何が始まるか不安だったが、最後の4回目の講座まで進み、本の中身作りを楽しく体験できた。こうむら先生から「何を書くか、考えることが大切、自分の生きた証となる物を作る」と教えられ、この本はとても大切なものに思えた。今回の講座を機に、旅行やイベントの整理の為、手製本づくりを始めたい。また、各人の作品の「見あいこ会」ではひとりひとりの個性豊かな作品が多く、その人の人柄や歩みが表れると感じた。この作品は、「手作り絵本展」に出品しました。
- 和製本のすばらしさを先生の優れた作品から、また、アカデミーのみなさんが作られた本を見て、すごく感動しました。また、そこに日本のよさ、味わいが感じられ感動しました。
- 明るい気持ちで記入できる「エンディングノート」が製作出来たと満足しています。大切にしたいと思っております。講師のこうむらさんの著作権についてのお話が印象に残りました。「自分の作る作品を大切にすることを忘れずに、他の人の作品を趣味製作以外で利用する場合は、著作者と出展の明記は必須！！」と。
- 先生から「私たちは大人だから外からは一般人として見えるだけですが、絵や作品を通してその人の内面が見えるもの」と言われ、自分が何かを作る事が好きな理由がわかったような気がしました。他の人の作品を拝見しそれぞれが工夫があり、やはり十人十色、素敵な発見がありました。
- 最初は出来ないと思っていましたが、回を重ねるごとに思いが増し楽しくなってきました。本づくりを知ることができ、よかったです。
- 本日は、和製本づくりの最後となり、他の方々の力作を拝見しました。同じ素材(用意された紙)を使ってもこんなに個性があり、唯一無二の作品は、どれを見ても素敵でした。
- メンバーのみなさんが多彩な本を作られており、さすがシニアだと感銘を受けました。●他のみなさんの作品を見て楽しんだり感心したり有意義な時間が過ぎた。くじ引きで、(作製者の思いを)発表するアイデアはGOOD！